学校番号	112

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校「新編　数学Ｂ」　（数研出版）						
副教材等	新課程　教科書傍用　3TRIAL　数学Ⅱ＋Ｂ　（数研出版） 新課程　チャート式　解法と演習　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では「自らが考え課題を解決する活動」「人と協働して課題を解決する活動」を行います。
・授業用ノートと問題集用ノートを必ず作ります。
・授業用ノートは板書を書き写すだけでは評価されません。解法のポイントや気づき、クラスメイトの言葉、疑問点などもしっかり書きましょう。
・毎時間の振り返り（リフレクション）を求めます。振り返りを次へ活かしましょう。
問題集の問題をまず自力で解きます。その際、答えの導き方がわかるように途中式や考え方も書くようにします。そして、自分で答え合わせをすることで、正解の場合は振り返りを、間違いの場合は自分のつまずきを知ることができます。
・復習や予習の家庭学習は絶対に必要です。そのため、宿題・課題を与え提出を求めます。最後まであきらめずに取り組んでください。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】
離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数列	第1節　等差数列と等比数列 1　数列と一般項 2　等差数列 3　等差数列の和 4　等比数列 5　等比数列の和	a:数列の定義や一般項について理解している。また、等差数列と等比数列を理解し、一般項や和を求めることができる。 b:数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。等差数列・等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 c:数の並び方や数列の性質に興味をもち，問題解決に取り組もうとする。数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	確認テスト 定期考査	定期考査	レポート 振り返りシート

		第2節　いろいろな数列 6　和の記号Σ 7　階差数列 8　いろいろな数列の和	a:記号Σの意味と性質を理解し,数列の和を求めることができる。階差数列や和を利用して、もとの数列の一般項が求めることができる。 b:数列の和を記号Σで表して,和の計算を簡単に行うことができ、既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。和に着目して、一般項を考察できる。群数列を理解し,ある特定の群に属する数の和が求められる。 c:和の求め方に興味をもち,具体的な問題に活用しようとする。群数列に興味をもち，考察しようとする。	確認テスト 定期考査	定期考査	レポート 振り返りシート
2学期	第1章　数列	第3節　漸化式と数学的帰納法 9　漸化式 10　数学的帰納法	a:漸化式の意味を理解し、一般項を求めることができる。数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 b:複雑な漸化式を,おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。自然数 n に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることを理解している。数学的帰納法で証明した命題について,別の方法で証明してそれらを比較するなど,多面的に考察することができる。 c:おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。数学的帰納法を利用していろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	確認テスト 定期考査	定期考査	レポート 振り返りシート

	第2章　統計的な推測	第1節　確率分布 1　確率変数と確率分布 2　確率変数の期待値と分散 3　確率変数の和と積 4　二項分布 5　正規分布	a:確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できる。連続型確率変数についても理解し確率を求めることができる。標準正規分布表を用いて正規分布に関する確率の計算ができる。 b:確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。二項分布や正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 c:確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。二項分布や正規分布に興味・関心をもち、具体的事項について考察しようとする。	確認テスト 定期考査	定期考査	レポート 振り返りシート
3学期	第2章　統計的な推測	第2節　統計的な推測 6　母集団と標本 7　標本平均の分布 8　推定 9　仮説検定	a:母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解し、母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。推定や仮説検定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 b:大数の法則について理解し、標本の大きさ n が大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。 c:大数の法則に興味をもち、標本の大きさ n が大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	確認テスト 定期考査	定期考査	レポート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度